

編集委員会便り

今年の夏は異常な猛暑であった。各地で水不足が深刻になり、水のありがたさを改めて知らされた。エネルギーに目を向けると、毎日の暑さで冷房需要が高まり、これまでの最大電力の記録が連日塗り替えられた。電力供給は、渇水により水力の発電量が低下したため石油火力に依存し、石油需要が大幅に増大した。幸いなことに、石油価格が比較的安価でかつ円高基調にあり、エネルギー危機に至らずにすんだ。

世界に目を向けると、景気が回復し始め、経済と雇用に明るい兆しが見えだした。しかし困ったことに世界のエネルギー需要も増加し始めている。エネルギー需要は一体どこまで増加していくのだろうか？世界経済が活性するのは喜ぶべきことであるが、エネルギー消費の増大はエネルギー政策に携わる人には頭の痛い話である。

特に中国を中心とするアジアのエネルギー消費の伸び率は著しい。アジアの経済発展は世界の注目の的になっている。中国のモータリゼーションは早くとも来世紀初期と思っていたのが、予想に反して湾岸地帯を中心に始まってしまった。昨年からは中国は石油の輸入国になり、近い将来には石炭も輸入国になると予測す

る専門家もいる。アジアの急激なエネルギー消費の増大には多くの不安がある。エネルギー需要はどこまで増えるのか？石油需要の増大で石油危機の恐れは？将来のエネルギー資源の分配は？エネルギー消費増大に伴う環境破壊は？

本号の特集「アジアのエネルギー情勢と環境問題」は、そういった不安に対し解決の糸口を探るため企画したものである。アジアのエネルギーと環境問題に詳しい専門家に最新の情勢を記述して頂いた。内容は、アジアの持続的成長に始まり、エネルギー事情、環境問題、中国の経済発展と環境問題、それに先進国の技術移転である。もちろんエネルギーと環境問題は複雑であり現時点で完全な回答を得ることは難しい。本特集を組むにあたり、難しい注文にも係わらず執筆者にまとめて頂いたことを深く感謝します。また今回の特集を読むことによって、読者が解決への方向を理解することができれば幸いである。

内山 洋 司

((財)電力中央研究所 経済社会研究所

技術評価グループリーダー)

協賛行事ごあんない

第29回空気調和・冷凍連合講演会講演募集

<開催日> 平成7年4月18日(火)~20日(木)
<会場> 総評会館・大会議室
(東京都千代田区神田駿河台3-2-11)

<申込締切日> 平成7年1月13日(金)必着
<原稿締切日> 平成7年2月24日(金)必着
<応募資格> 共催学協会会員

■申込先

(株)日本機械学会 第29回空気調和・冷凍連合講演会係 磯野 紳一

〒151 東京都渋谷区代々木2-4-9 新宿三信ビル Tel 03-3379-6781 Fax 03-3379-0934